



2021年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2020年11月5日

東

上場会社名 株式会社フジ・メディア・ホールディングス上場取引所
 コード番号 4676 URL <https://www.fujimediagd.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 金光 修
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員常務 (氏名) 奥野木 順二 (TEL) (03) 3570-8000
 財務局長
 四半期報告書提出予定日 2020年11月12日 配当支払開始予定日 2020年12月9日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第2四半期の連結業績(2020年4月1日~2020年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第2四半期	246,868	△22.0	4,847	△73.5	9,480	△58.2	5,417	△81.2
2020年3月期第2四半期	316,550	8.3	18,277	62.9	22,692	50.5	28,854	185.2

(注) 包括利益 2021年3月期第2四半期 28,437百万円(10.5%) 2020年3月期第2四半期 25,737百万円(△19.7%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
2021年3月期第2四半期	円 銭 23.46	円 銭 —
2020年3月期第2四半期	124.65	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
2021年3月期第2四半期	百万円 1,286,616	百万円 766,327	% 58.8
2020年3月期	1,254,613	745,574	58.6

(参考) 自己資本 2021年3月期第2四半期 756,085百万円 2020年3月期 735,431百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2020年3月期	円 銭 —	円 銭 22.00	円 銭 —	円 銭 22.00	円 銭 44.00
2021年3月期	—	18.00			
2021年3月期(予想)			—	18.00	36.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日~2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	569,400	△9.8	13,000	△50.6	18,200	△47.8	9,000	△78.2	39.14

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年3月期2Q	234,194,500株	2020年3月期	234,194,500株
② 期末自己株式数	2021年3月期2Q	5,237,568株	2020年3月期	2,863,495株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2021年3月期2Q	230,895,092株	2020年3月期2Q	231,488,964株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

政府の月例経済報告によると、当第2四半期連結累計期間の日本経済は「先行きについては、感染拡大の防止策を講じつつ、社会経済活動のレベルを引き上げていくなかで、各種政策の効果や海外経済の改善もあって、持ち直しの動きが続くことが期待される。ただし、国内外の感染症の動向や金融資本市場の変動等の影響を注視する必要がある」と記されており、企業の業況判断は「厳しさは残るものの、改善の動きがみられる」とされております。

当社グループにおいても、新型コロナウイルス感染症による影響により、広告収入の減少や旅行・観光需要の減少、イベントの中止・延期など影響をうけました。

こうした状況の中、当社グループの当第2四半期連結累計期間の売上高は、メディア・コンテンツ事業、都市開発・観光事業、その他事業すべてのセグメントで減収となり、前年同期比22.0%減収の246,868百万円となりました。

営業利益も、メディア・コンテンツ事業、都市開発・観光事業、その他事業で減益となり、前年同期比73.5%減益の4,847百万円となりました。経常利益は前年同期比58.2%減益の9,480百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年の特別利益に厚生年金基金代行返上益を計上したことの反動減のほか、特別損失において新型コロナウイルス感染症による損失を計上したことで前年同期比81.2%減益の5,417百万円となりました。

報告セグメントの業績の状況は以下の通りであります。

	売上高			セグメント利益		
	前第2四半期 連結累計期間 (百万円)	当第2四半期 連結累計期間 (百万円)	増減 (%)	前第2四半期 連結累計期間 (百万円)	当第2四半期 連結累計期間 (百万円)	増減 (%)
メディア・コンテンツ 事業	255,812	209,765	△18.0	8,017	3,195	△60.1
都市開発・観光事業	57,833	34,631	△40.1	10,740	2,035	△81.1
その他事業	9,787	8,600	△12.1	268	175	△34.9
調整額	△6,883	△6,128	—	△749	△558	—
合計	316,550	246,868	△22.0	18,277	4,847	△73.5

(メディア・コンテンツ事業)

㈱フジテレビジョンは、新型コロナウイルス感染症による影響を受け、放送事業収入は減収となりました。ネットタイム収入は、スポーツイベントなどの単発番組が中止や延期になったことから減収、スポット収入も経済活動の停滞による企業の業績悪化の影響で減収となりました。その他事業収入は、ビデオ事業やFOD課金が好調だったものの、イベントや映画が中止、延期となり全体では減収となりました。営業費用の低減に努めましたが減収減益となりました。

㈱ビーエスフジは、放送事業が減収だったものの、営業費用がおさえられたことから減収増益となりました。

㈱ニッポン放送は、ラジオ通販事業が好調でしたが、主力の放送事業が減収となり、減収減益となりました。

㈱ポニーキャニオンは、巣ごもり需要をとらえ配信収入や旧譜作品のパッケージ販売が好調だった一方で、新型コロナウイルス感染症によりイベントが中止となり、チケット収入やグッズ販売が苦戦し、売上高全体で減収となりました。利益面では前年の本社移転関連費の反動減などにより営業費用が抑えられたことから黒字化しました。

㈱フジパシフィックミュージックは、著作権使用料収入と原盤使用料収入が増収となり、増収増益となりました。

㈱ディノス・セシールのディノス事業は、テレビ通販で美容健康商材を中心に引き続き好調を維持した他、在宅需要等を背景に家庭用品や家具などが好調で増収となりましたが、セシール事業はカタログ事業が伸び悩み減収となりました。その結果、㈱ディノス・セシール全体としては消費増税前の駆け込み需要を取り込んだ前年には及ばず減収となりましたが、販管費抑制に努め増益となりました。

㈱クオラスは、広告収入が低調だったことで減収となり、営業損失を計上しました。

㈱フジゲームスはスマートフォンゲームが苦戦し、営業損失を計上しましたが、営業費用の削減に努め、赤字幅は縮小しました。

以上の結果、メディア・コンテンツ事業全体の売上高は前年同期比18.0%減収の209,765百万円となり、セグメント利益は同60.1%減益の3,195百万円となりました。

(都市開発・観光事業)

㈱サンケイビルは、住宅事業において分譲マンション販売が増加しましたが、ビル事業と資産開発事業が減収となり、全体で減収減益となりました。

㈱グランビスタホテル&リゾートは、新型コロナウイルス感染症による影響で、インバウンド含む旅行・観光需要の減少を受けて減収となり、営業損失を計上しました。

以上の結果、都市開発・観光事業全体の売上高は、前年同期比40.1%減収の34,631百万円となり、セグメント利益は、同81.1%減益の2,035百万円となりました。

(その他事業)

その他事業全体の売上高は、前年同期比12.1%減収の8,600百万円となり、セグメント利益は同34.9%減益の175百万円となりました。

持分法適用会社では、㈱WOWOW、伊藤忠・フジ・パートナーズ㈱、㈱産業経済新聞社、日本映画放送㈱などは持分法による投資利益に貢献しました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期末の総資産は1,286,616百万円で、前期末比32,003百万円(2.6%)の増加となりました。

流動資産は390,419百万円で、前期末比33,614百万円(7.9%)の減少となりました。これは、現金及び預金が16,961百万円増加した一方で、受取手形及び売掛金が29,039百万円、有価証券が21,391百万円減少したこと等によります。

固定資産は895,994百万円で、前期末比65,647百万円(7.9%)の増加となりました。これは、投資有価証券が50,644百万円、建物及び構築物が12,614百万円増加したこと等によります。

負債は520,289百万円で、前期末比11,251百万円(2.2%)の増加となりました。

流動負債は121,472百万円で、前期末比44,612百万円(26.9%)の減少となりました。これは、短期借入金が20,491百万円、支払手形及び買掛金が9,364百万円、「その他」に含まれる未払金が8,033百万円減少したこと等によります。

固定負債は398,816百万円で、前期末比55,863百万円(16.3%)の増加となりました。これは、長期借入金が44,996百万円、「その他」に含まれる繰延税金負債が9,373百万円増加したこと等によります。

純資産は766,327百万円で、前期末比20,752百万円(2.8%)の増加となりました。これは主に、その他有価証券評価差額金が22,888百万円増加したこと等によります。

当第2四半期における各キャッシュ・フローの状況は以下の通りであります。

営業活動によるキャッシュ・フローは24,276百万円の収入となり、前年同期比15,111百万円(164.9%)の収入増加となりました。これは、税金等調整前四半期純利益が32,055百万円減少した一方で、売上債権の増減額が20,141百万円の収入増加、退職給付に係る負債の増減額が18,953百万円の支出減少、たな卸資産の増減額が4,770百万円の収入増加となったことや、法人税等の支払額が4,194百万円減少したこと等によります。

投資活動によるキャッシュ・フローは24,776百万円の支出となり、前年同期比1,735百万円(7.5%)の支出増加となりました。これは、有形固定資産の取得による支出が12,627百万円増加、投資有価証券の取得による支出が4,987百万円増加した一方で、有価証券の取得による支出が27,813百万円減少したこと等によります。

財務活動によるキャッシュ・フローは16,439百万円の収入となり、4,357百万円の支出だった前年同期に比べ、20,796百万円の収入増加となりました。これは、長期借入金の返済による支出が9,320百万円増加した一方で、長期借入れによる収入が26,252百万円増加したこと等によります。

以上の結果、現金及び現金同等物の四半期末残高は95,615百万円で、前期末に比べ15,645百万円(19.6%)の増加、前年同四半期末に比べ25,391百万円(36.2%)の増加となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第2四半期連結累計期間の連結業績は、メディア・コンテンツ事業、都市開発・観光事業ともに減収減益となりました。依然として新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない中、各種施策等もあり徐々に消費活動は回復の方向に進みつつありますが、通期の連結業績予想につきましては、今期中は影響が残ることを前提とし、事業への影響を想定して算定した2020年7月22日付けの「連結業績予想および配当予想に関するお知らせ」で公表した業績予想に変更はありません。

なお、2018年5月15日に公表した中期経営計画で掲げた定量目標につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う大きな経営環境の変化と当社グループの状況から取り下げることにいたしました。今後につきましては、中期経営計画で掲げている収益力・経営基盤の強化の取り組みを継続するとともにメディア環境の変化に対応し構造改革を実施してまいります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	76,126	93,088
受取手形及び売掛金	110,390	81,350
有価証券	97,536	76,145
たな卸資産	101,163	101,020
その他	39,725	39,616
貸倒引当金	△908	△801
流動資産合計	424,033	390,419
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	135,228	147,843
土地	258,037	261,563
その他（純額）	42,759	38,639
有形固定資産合計	436,024	448,046
無形固定資産		
のれん	811	759
その他	17,235	20,183
無形固定資産合計	18,046	20,943
投資その他の資産		
投資有価証券	333,806	384,450
その他	44,242	44,189
貸倒引当金	△1,773	△1,635
投資その他の資産合計	376,276	427,004
固定資産合計	830,346	895,994
繰延資産	233	203
資産合計	1,254,613	1,286,616

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	40,976	31,611
電子記録債務	12,374	11,713
短期借入金	40,559	20,068
返品調整引当金	673	521
役員賞与引当金	436	145
ポイント引当金	457	399
環境対策引当金	47	—
その他	70,559	57,013
流動負債合計	166,085	121,472
固定負債		
社債	20,000	20,000
長期借入金	182,829	227,825
役員退職慰労引当金	2,443	2,348
退職給付に係る負債	37,835	37,814
その他	99,845	110,828
固定負債合計	342,953	398,816
負債合計	509,038	520,289
純資産の部		
株主資本		
資本金	146,200	146,200
資本剰余金	173,794	173,796
利益剰余金	346,693	346,958
自己株式	△3,997	△6,483
株主資本合計	662,691	660,472
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	76,475	99,363
繰延ヘッジ損益	△218	△248
土地再評価差額金	1,479	1,479
為替換算調整勘定	△1,310	△1,584
退職給付に係る調整累計額	△3,686	△3,397
その他の包括利益累計額合計	72,739	95,613
非支配株主持分	10,143	10,241
純資産合計	745,574	766,327
負債純資産合計	1,254,613	1,286,616

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
売上高	316,550	246,868
売上原価	220,553	173,323
売上総利益	95,997	73,544
販売費及び一般管理費	77,719	68,696
営業利益	18,277	4,847
営業外収益		
受取配当金	2,001	2,041
持分法による投資利益	2,351	2,054
その他	1,084	1,647
営業外収益合計	5,436	5,743
営業外費用		
支払利息	536	709
その他	485	401
営業外費用合計	1,022	1,110
経常利益	22,692	9,480
特別利益		
投資有価証券売却益	32	92
厚生年金基金代行返上益	18,832	—
雇用調整助成金	—	233
その他	44	43
特別利益合計	18,909	369
特別損失		
減損損失	1,536	—
新型コロナウイルス感染症による損失	—	1,783
その他	326	384
特別損失合計	1,863	2,167
税金等調整前四半期純利益	39,738	7,682
法人税、住民税及び事業税	5,902	3,227
法人税等調整額	4,833	△862
法人税等合計	10,735	2,365
四半期純利益	29,002	5,316
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	147	△100
親会社株主に帰属する四半期純利益	28,854	5,417

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
四半期純利益	29,002	5,316
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△9,891	22,730
繰延ヘッジ損益	△32	△16
土地再評価差額金	975	—
為替換算調整勘定	△575	△329
退職給付に係る調整額	6,885	389
持分法適用会社に対する持分相当額	△627	348
その他の包括利益合計	△3,265	23,121
四半期包括利益	25,737	28,437
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	25,545	28,290
非支配株主に係る四半期包括利益	191	147

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	39,738	7,682
減価償却費	7,800	8,442
減損損失	1,536	—
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△18,984	△30
受取利息及び受取配当金	△2,116	△2,196
支払利息	536	709
持分法による投資損益(△は益)	△2,351	△2,054
売上債権の増減額(△は増加)	8,928	29,070
たな卸資産の増減額(△は増加)	△1,118	3,651
仕入債務の増減額(△は減少)	△9,945	△10,023
その他	△6,725	△8,343
小計	17,297	26,905
利息及び配当金の受取額	3,350	3,291
利息の支払額	△524	△633
法人税等の支払額	△12,306	△8,111
法人税等の還付額	1,348	2,826
営業活動によるキャッシュ・フロー	9,165	24,276
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	△109,101	△81,287
有価証券の売却及び償還による収入	111,000	103,645
有形固定資産の取得による支出	△13,597	△26,224
無形固定資産の取得による支出	△2,118	△4,300
投資有価証券の取得による支出	△12,633	△17,621
投資有価証券の売却及び償還による収入	3,622	1,317
その他	△213	△306
投資活動によるキャッシュ・フロー	△23,041	△24,776
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△15,500	△13,500
長期借入れによる収入	24,747	51,000
長期借入金の返済による支出	△3,674	△12,994
自己株式の取得による支出	—	△2,444
配当金の支払額	△5,148	△5,147
非支配株主への配当金の支払額	△1,374	△47
非支配株主への払戻による支出	△2,900	—
その他	△507	△426
財務活動によるキャッシュ・フロー	△4,357	16,439
現金及び現金同等物に係る換算差額	△350	△293
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△18,584	15,645
現金及び現金同等物の期首残高	89,900	79,970
合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	23	—
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	△1,114	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	70,224	95,615

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I. 前第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 事業 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	メディア・コ ンテンツ事業	都市開発・ 観光事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	255,537	57,570	313,108	3,442	316,550	—	316,550
セグメント間の 内部売上高又は振替高	275	262	537	6,345	6,883	△6,883	—
計	255,812	57,833	313,646	9,787	323,433	△6,883	316,550
セグメント利益	8,017	10,740	18,757	268	19,026	△749	18,277

- (注) 1 「その他事業」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、人材派遣、動産リース、ソフトウェア開発等を含んでおります。
- 2 セグメント利益の調整額△749百万円には、セグメント間取引消去1,644百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△2,394百万円が含まれております。全社費用は、認定放送持株会社としての親会社の費用であります。
- 3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「都市開発・観光事業」セグメントにおいて1,533百万円の減損損失を計上しております。これは、㈱サンケイビルにおいて、賃貸用不動産の販売用不動産への保有目的変更に伴って計上したものであります。

II. 当第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 事業 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	メディア・コ ンテンツ事業	都市開発・ 観光事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	209,623	34,488	244,111	2,756	246,868	—	246,868
セグメント間の 内部売上高又は振替高	142	142	284	5,844	6,128	△6,128	—
計	209,765	34,631	244,396	8,600	252,997	△6,128	246,868
セグメント利益	3,195	2,035	5,231	175	5,406	△558	4,847

- (注) 1 「その他事業」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、人材派遣、動産リース、ソフトウェア開発等を含んでおります。
- 2 セグメント利益の調整額△558百万円には、セグメント間取引消去1,667百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△2,226百万円が含まれております。全社費用は、認定放送持株会社としての親会社の費用であります。
- 3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。